

プロジェクト対象種の外観と特徴

外観 / 種名	特徴
 Silver barb (シルバーバルブ) Barbomysongonionotus	東南アジアに広く分布するコイ科バルブス亜科の一種で、カンボジアの在来種です。天然水域からの漁獲も多く、現地では最も好まれる魚の一つとなっています。本プロジェクトの種苗農家で、まず最初に種苗作りに取り組むのがこの魚です。
 Silver carp (シルバーカープ) Hypophthalmichthysmolitrix	ハクレンと呼ばれる中国大陸原産のコイ科の魚です。植物プランクトンを食べ、成長が良いことから、世界各国へ移植され養殖されています。日本でも過去に移植され、利根川、霞ヶ浦水系で自然繁殖が確認されています。
 Mrigal (ムリガル) Cirrhinuscirrhosis	ムリガルと呼ばれるインド原産のコイ科魚類で、味がよくて飼育しやすいため、多くの熱帯域で養殖されています。コイにとってかわる有望種として人気が高いことから本プロジェクトのフェーズ1から普及対象種として取り組み始めました。
 Common carp (コモンカープ) Cyprinuscarpio	日本でもおなじみのコイは中央アジアの原産です。環境適応性が高く、成長がよいので世界中で養殖されていますが、近年コイヘルペスの世界的流行のため、活魚の移動には注意が必要になっています。
 Nile tilapia (ナイルティラピア) Oreochromisniloticus	アフリカ北部ナイル川原産の魚で、飼育しやすく味がよいので世界中の熱帯域で養殖されています。鯛に味や食感が似ていることから、かつては日本でもイヅミダイ、チカダイの名前で流通していたことがあります。メスが口腔内で卵を孵化(ふか)させ、一定期間哺育するマウスブリーダーとして知られています。
 African catfish (ヒレナマズ) Clariasgariepinus	空気呼吸器官をもち水質適応性が広く成長もよいのでカンボジアでも養殖対象としての人気が高まっています。特にアフリカ原産の Clariasgariepinus は成長が早く、1年足らず1kg超と大きく育ちます。東南アジアでは近縁の在来種 (Clariasmacrocephalus) との交雑種苗を養殖に用いるケースも多くみられます。
 Pangasius (パンガシウス) Pangasiushypophthalmus	メコン原産のナマズで、水草や腐食した動植物類、木の实、動植物プランクトン等を食す雑食性です。水質適応性が高く、成長も早いので東南アジア各国で養殖されています。特にベトナムでは養殖が盛んで、白身で淡泊な肉質であることからアメリカやヨーロッパへも輸出されています。近年カンボジアでも種苗の生産が始まりましたが、流通しているパンガシウス種苗の相当量は依然ベトナムから流入していると言われています。